２０１９年（平成３１年）３月２７日　水曜日

東奥日報　１７面　掲載

選抜高校野球大会第４日は26日、甲子園球場で１回戦３試合が行われた。八戸学院光星は、広陵（広島）の主戦河野に散発３安打に抑えられ０－２で完封負け。河野は八学光星から８三振を奪い、打線は五回に挙げた２点を守り抜いた。このほか、東邦（愛知）筑陽学園（福岡）が２回戦に勝ち上がった。東邦は21世紀枠で初出場の富岡西（徳島）に３－１で競り勝った。１－１の七回に松井が勝ち越し打を放ち、石川は毎回の11奪三振で完投した。初出場の筑陽学園は福知山成美（京都）に３－２で勝利。２－２の七回に野田の適時二塁打で勝ち越した。西が２失点で投げ抜いた。

第91回 センバツ 高校野球 第4日

光星無得点 力負け

初戦敗退 広陵・河野を打ち崩せず

【広陵－八学光星】７回表八学光星１死、近藤が左前に安打を放つ＝博多鉄道

近藤「気持ちよく放られた」

「河野対策」を徹底した、はずだった八学光星は広陵（広島）のエース右腕・河野の前に散発３安打、無得点、仲井監督は「一刀でねじ伏せられた」と完敗を認める。「初回は頭衆も驚く１８０キロ」の速球で三振を奪われたかと思えば、二回以降は変化球主体とたり一転、遅いが生じた二、三回近藤、広陵バッテリーに終始手玉に取られた。

対戦相手が広陵に決まって以降、光星打撃練習は河野に見立てた打撃練習投手が返ってくるなど、対策に熱心に取り組んだ。「最速１４８キロの速球を念頭に、前日練習後は「甘い真っすぐを仕留める」「主将武岡」ことで方針を確認した。しかし初回、先頭打者の伊藤は驚く様子を微塵も出さず「高めの球に手が出てしまうほどの威力。そして変化球も振り三振し時の球速は１３０キロを表示した。「完全にやられた」と、伊藤は悔しがった。

済みだが、打席で感じた「球の伸び」は予想以上だった。真っすぐ狙いで良いのか」と光星打線が戸惑う中、広陵バッテリーはその後、変化球を多投。中盤から打線はスライダーに狙い球を変えたが、「変化球も全て精度が高い」（仲井監督）ため、打ち崩せなかった。

０－２の八回、光星は相手のミスが続いて２死ながら二、三塁、バッターはプロ注目の武岡という、この日一番の好機を迎えた。しかし、やはり河野が一枚上だった。武岡の苦手とする内角に速球を投げ込み、内角に来るのは分かっていた。それでも武岡は打てなかった。

「（河野に）気持ちよく放られた」と近藤。日本一を目指すには、全国屈指の好投手との対戦は避けられない。「打ち崩せる打線じゃないと勝てない」。そう痛感した春だった。（佐々木大輔）

主戦後藤 細かいミス反省

広陵戦に先発、力投した八学光星・後藤

今大会注目の剛腕と、一ないなど、「細かいミス決め球に使ったが、配球が負けにつながった」と投手戦を演じた八学光星の主戦後藤（広陵・広島）反省を口にした。

打線を相手に８回２失点と踏ん張ったが、自信のあるスライダーが決まらず「いい球で抑えたら流れてくる」（捕手大山）としたことも影響した。三、四、六回は先頭打者を四球で歩かせた。五回は先頭打者に甘い球を狙い打たれ、流れを渡し決勝点につながった。

一方で、主戦の気概は存分に見せた。二回は無死満塁のピンチを無失点で切り抜けた。粘り強く投げられたのは攻撃と後藤、夏に向け、「攻打ち取る」と強く意識す撃に良い流れをつなげるあまり、フォームを崩投球をしなければ」と課題を見据えた。（高松佑輝）

６回裏広陵無死一塁、中村の遊ゴロで八学光星の二塁手伊藤が金沢を二封、一塁に送球し併殺とする

１回戦で敗退し、応援席へあいさつに向かう八学光星ナイン

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです